

WAKU WAKU!

株主 通信

【最終号】2012年2月期 2011年3月1日～2012年2月29日

【証券コード:3337】



まず初めに、当社を含むユニーグループは、2013年2月21日をもって持株会社体制へ移行することをご報告いたします。また、持株会社体制移行に先立ち、当社は親会社であるユニー株式会社の完全子会社となる予定です。今後、6月19日に開催予定の当社臨時株主総会および普通株主による種類株主総会において、当社が付議する議案が原案通り承認可決された場合、東京証券取引所および名古屋証券取引所の株券上場廃止基準に従い、2012年7月19日に上場廃止となる見込みです。これまで株主の皆様をはじめ、関係各位の皆様には、長年にわたり当社の経営にご理解と温かいご支援を賜りました。今号で最終号となる株主通信の紙面を借りまして、心より感謝申し上げます。

さて、コンビニエンスストア業界は、今大きな転換期を迎えようとしています。きっかけは2011年3月に発生した東日本大震災です。震災の緊急時にコンビニエンスストアの利便性に改めて気付かれたお客様がその後もご来店くださるようになり、特に女性層や中高年層など新たな客層の来店が増加しました。この背景には、働く女性の増加や高齢化社会の進展など、コンビニエンスストアの創業期とは大きく異なる社会構造の変化があります。コンビニエンスストア業界が新たな客層の支持を得て、今後もさらにそのマーケットを拡大させていくことは間違いありません。しかし、その過程では、同業他社のみならず、業種業態を超えた競争がますます激しさを増すものと思われま

このような環境の中、既存の品揃えや店舗フォーマットでは今後の成長は限定的であり、競争を勝ち抜いていくためには「新しいコンビニエンスストア」の創造を急がなくてはなりません。その答えとして我々が出した結論が、ユニーとの経営統合です。ユニーとサークルKサンクスの売上高を合わせると2兆円近い規模となります。このスケールメリットを活かすべく、ユニーの総合スーパー事業と当社のコンビニエンスストア事業を中心とした強固なグループ体制を築いてまいります。そして、総合小売グループとしての強みを発揮し、店舗開発やプライベートブランド商品の開発、商品調達、物流など多方面においてグループシナジーの最大化に取り組む考えです。

今後もお客様に選ばれるチェーンを目指し、より一層の顧客価値の向上に取り組んでまいりますので、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

2012年5月24日

代表取締役社長 中村元彦

持株会社の概要

商号 ユニーグループ・ホールディングス株式会社

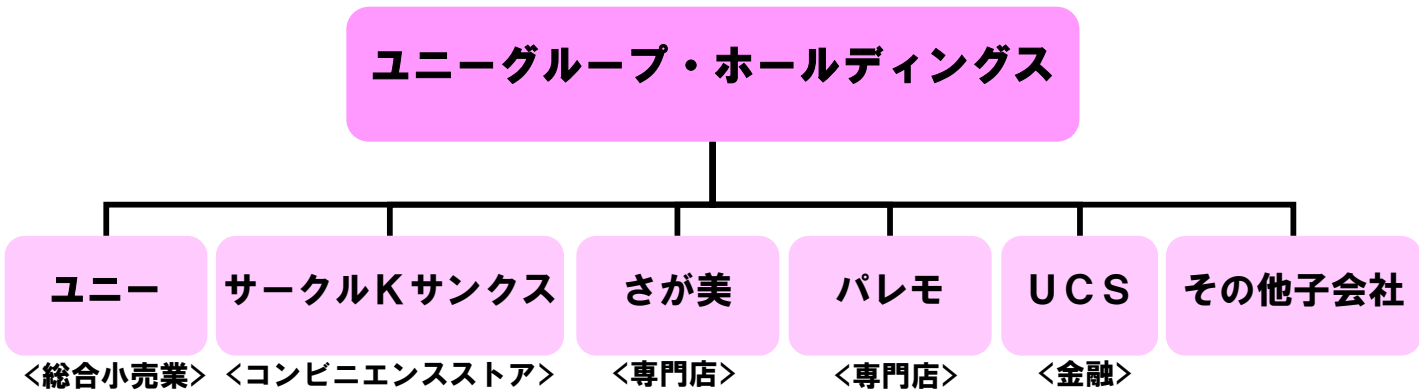
住所 愛知県稲沢市天池五反田町一番地

代表者 代表取締役会長兼最高経営責任者(CEO) 前村 哲路 (現ユニー株式会社代表取締役社長)

代表取締役社長兼最高執行責任者(COO) 中村 元彦 (現株式会社サークルKサンクス代表取締役社長)

資本金 101 億 29 百万円

持株会社体制図



持株会社体制における具体的な取り組み

● 商品開発、共同物流、共同販促によるグループシナジーの最大化

ユニーグループのプライベートブランドである「Style ONE」「Prime ONE」の共同開発を推進します。また、物流センターの共同利用によるコスト削減やITビジネスの共同取り組みを強化します。

● 海外戦略、M&A戦略および新規事業戦略の立案など、グループの方向性の明確化

縮小する国内マーケットに対応するため、アジアを中心に出店を拡大し、グローバル展開を推進します。また、積極的なM&A戦略を行うとともに、新規事業の展開により、地域ドミナント化の推進とグループ規模の拡大を図ります。

● 人材交流、資金管理一元化によるグループ経営資源の最適配分

持株会社を中心に人材の交流を図るほか、キャッシュマネジメントシステムの導入による資金の最適配分に取り組めます。